広島都市学園大学
健康科学部保護者の会
会　報

こころ

第　13　号

発　行　広島都市学園大学健康科学部保護者の会
発行先　〒734-0014
広島市南区宇品西五丁目13番18号
TEL　082-250-1133
FAX　082-250-1134

【「こころ」の由来：広島都市学園大学の理念である「心技一体」の１文字からつけています。】

国家試験対策特集

リハビリテーション学科の取り組み

学部長・学科長
富樫誠二

今年の夏は、大気が不安定なため雨が急激に降り、大雨になる日が多く、そのせいか、蒸すような暑さを感じます。しかし、朝の冷やかさからは、すでに秋に向かっていると感じさせる今日この頃でもあります。

さて、４年生は、総合臨床実習が終わり、卒業論文の仕上げに余念がない時期だと思います。卒業のためには、卒業の要件である127単位（４年後期の単位を含む）を修得しなければなりませんが、それとともに作業療法士（ＯＴ）、理学療法士（ＰＴ）の国家試験に合格しなければ、目標であるＯＴ・ＰＴとして働くことができません。

卒業と国家試験合格に向けて、これからの６カ月は正念場が続く大変重要な時期であるといえます。そのことを踏まえて、リハビリテーション学科国家試験対策委員会を中心とした理学療法学専攻、作業療法学専攻のさまざまな取り組みについて、各専攻から報告させていただきます。

理学療法学専攻の国家試験対策について

理学療法学専攻講師
上川紀道

処暑の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお喜び申しあげます。理学療法学専攻国家試験担当教員の上川紀道と申します。本学の理学療法学専攻における国家資格取得に向けた取り組みについてご説明させていただきます。

■国家試験の実際

理学療法士国家試験は、毎年２月下旬～３月上旬の日曜日、年に１度だけ開催されます。受験地に広島県は含まれないため、本学では、福岡県を受験地として選択し、教員同伴のうえで全員が同じホテルに前泊して受験に備えております。国家試験は、午前午後ともに100問、合計200問出題されます。そのうち、午前午後ともに１～20問目は実地の問題で１問３点、残り80問は一般の問題で１問１点となります。合計で、午前140点、午後140点となり、満点は、280点となります。正答率60％以上で合格となりますので、午前午後の合計で168点以上とる必要があります。国家試験の結果は、３月下旬に厚生労働省のホームページにて合格者の受験番号が発表されることで明らかとなります。

本学の国家試験合格率については、直近３年分（１～３期生）の理学療法士国家試験合格率の推移（図１）をご確認ください。全国の理学療法士国家試験合格率の特徴としましては、過去に一度も70％以下になったことはありません。しかしながら、年によって70～90％台と幅が広く、国家試験の難易度が一定ではないことが伺えます。本学では、この難易度に左右されない合格率を目標として国家試験対策に取り組んでおります。

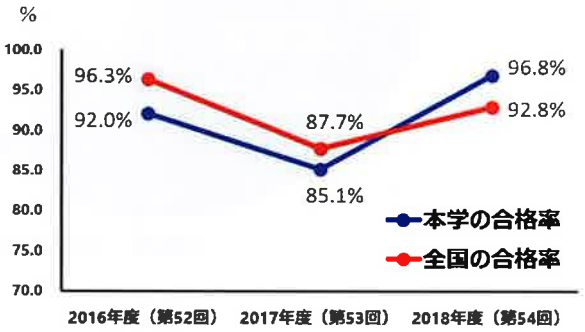

図１．理学療法士国家試験の合格率推移

■国家試験対策の内容

４年生における対策を中心にお伝えいたします。４月上旬、まずは、国家試験の実際について学生に説明することから開始します。一番初めに伝えることは、「国家試験当日まで国試対策を優先！お盆・夏休み・クリスマス・大晦日・お正月はありません！国家試験に合格しなければ意味なし！」以上です。その後、いつ、どこで、どうやって会場まで行くのか、国家試験は何問何点満点、実地問題と一般問題の違いは何なのか。そもそも、国家試験を受験する上でどれくらいの金額が必要となるのか。これから戦う相手のことを知ることから始めるのは当たり前のことですが、意外と知らない学生も多く、説明時においても最初から他力本願な態度が見受けられるため、国家試験対策では特に厳しい態度で臨んでおります。

４月下旬には、こちらで作成した模擬試験を実施します。第１回は、直近５年分の過去問の中から範囲を決めて出題します。決められた範囲からのみ出題しますので、難易度は低い模擬試験です。しかしながら、満点に近い点数をとる学生が続出する中、半分程度しか点数をとることができない学生がいます。このように、第１回の模擬試験は、後者のような学生を抽出するために実施します。このような学生に理由を聞くと、多くは「やる気が出ないからそもそも勉強していない」、「やったけど結果が出ない」と答えます。どちらも問題ではありますが、近年、特に問題視しているのは「やったけど結果が出ない」という学生です。このような学生に対しては、個別指導が欠かせません。問題をどのように解釈しているのかを確認しながら指導を進めていく必要があります。

５月にも模擬試験を実施し、成績不良者には課題の提示、補習の実施を繰り返します。６～７月は最後の実習（８週間）があり、10月には卒業論文の提出も控えておりますが、実習終了後の７月末から本格的な指導に入ります。

理学療法学専攻の特徴的な国家試験対策として、グループ学習（８名程度）と成績順のチーム編成があります。

グループ学習は、①問題を実施、②すべて答え合わせ（正解or不正解のみ）を先に終わらせる、③問題の最初から不正解だった人のみ挙手させる、④正解した人は順番に、正解するために必要な知識やコツなどを発表、⑤不正解の人は必ずノートに④で発表されたことを記載し、正解した人も必要な情報をノートまたはテキストに記載、上記①～⑤をひたすら繰り返し、ノートに記載した情報は必ず、家または翌日の午前中に覚えることを行います。

成績順のチーム編成は、定期的な模擬試験の結果から成績順に約20名ずつの３チームに分けます。チームＡは成績優秀、チームＢは成績普通、チームＣは成績不良ということになります。このチームごとに補習を実施していきますが、補習の頻度、レベルを変えます。例えば、チームＣの補習頻度は高く、レベルは低く設定します。そして、定期的にチーム入替戦という名の模擬試験を実施します。

このようにして、指導内容に変化をつけて、チームのレベルに応じた補習を心がけています。チーム編成の結果は非常にわかりやすく、成績優秀者は常にチームＡ所属となります。時に下位チームに降格した場合は、こちらとしてもすぐに学生の変化に気づくことができます。学生にとっても、自分の国家試験に対する理解度を確認してもらうわかりやすいツールになっていると考えております。

■国家試験対策を進めていく上での問題点とお願い

チームＣに所属している学生は、日曜日の登校も指示し、各教員による補習を実施しております。また、遅刻や欠席をする場合は、必ず事前に報告するように厳しく指導しております。しかしながら、成績が伸び悩む学生の特徴として、①無断で遅刻・早退・欠席する、②連絡はしてくるが理由が家庭の事情、常に体調不良、③急に平日に法事・結婚式に行くという、④土日登校が始まると平日の欠席が多くなる（しっかり週休２日）、⑤指導した通りに学習しない、⑥12月になってもまだやる気が出ないと言い、学習時間が異常に短い、などがあります。国家試験は、当日にインフルエンザに罹患して高熱が出ようとも、何か家庭の事情があろうとも、如何なる理由があっても追試験はありません。年に１度の国家試験のために、日ごろから自己管理を徹底することは非常に重要です。

作業療法学専攻の国家試験対策について

作業療法学専攻助教
山田貴子

いつも本学の教育活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。このたび紙面を借りて、本専攻の国家試験対策についてご説明させていただくこととなりましたので、よろしくお願いいたします。

さて、私たちが目指している作業療法士は国家資格です。年に一度、例年2月末ごろに行われる国家試験（以下、国試と呼びます）に合格することで、資格が取得できます。

大学卒業（学位取得）は、あくまでも国試の受験資格を得るだけで、卒業イコール国試合格とならないため、4年次の実習終了後からは全員で集中的に受験勉強に取り組みます。

ここ最近の全国の国試合格率は、平均すると約80％です。年度によって多少の差があるものの、この3年間は全国的に合格率が下がっている、すなわち、問題の難易度が上がっていると感じています。また、1年次で学ぶ解剖学や生理学、2年次の運動学や臨床医学など、専門基礎科目の割合も大きく、早いうちからの学習習慣が、とても重要だと実感しています。

そのため、私たちOT専攻では表1のような教育目標を設定し、入学直後から能動的・計画的に学習していけるようなサポートを目指しています。

まず1年次では、大学入学という大きな環境変化に対応しつつ、授業に遅刻・欠席なく参加し、自ら予習復習をすすめていくことが求められます。そのため、ホームルームやチューター面談を通して、安心できる場や関係づくりを心がけます。国試に関する情報も積極的に提供し、学習のきっかけをつくります。

2年次では、少しずつ専門的な授業が増えていきます。9月には一週間の臨床見学実習を行いますので、作業療法士の仕事について改めて考える機会となります。そうした中で国試の過去問題に触れ、クラス全員で解説集を作るという活動を通して自分の学習方法を見直し、発展させていきます。

3年次では、より専門的・実践的な授業が増えます。授業内外でのグループワークを通して、互いに切磋琢磨しながら学習を深めます。特に、3週間の基礎臨床実習に向けて知識や技術を振り返り、自分なりにまとめるなどの工夫が必要となる重要な時期です。時には課題の多さに立ち止まりそうになることもありますが、担任やチューター、教科担当など、教員も一丸となってサポートしていきます。

4年次の前期は、すべて学外での実習となります。その後、それぞれが各施設で学んだことを持ち帰り、お互いに情報交換しながら、後期の授業や就職活動、国試勉強に取り組んでいきます。特に、「作業療法特論」という授業は、これまでの総まとめとなる大事なものです。グループワークを中心として、学生同士で学びを深めていきます。また、月1回（1月からは月2回）国試模試を行い、自分の実力を確認する機会とします。万が一、成績が伸び悩んでいるようであれば、学力の補充だけでなく、チューター面談などを通して、生活面や精神面のフォローも行っていきます。また、学習がスムーズに進むような環境づくりとして、国試対策専用の学習室を準備し、土日祝でも集中して取り組めるようにしております。教員も常に待機し、いつでもすぐに質問に対応できるような体制をとります。その甲斐あってか、昨年度の本学の合格率は全国平均を上回ることができました。

国試合格まではとても長い道のりです。しかし、頑張れば手が届く目標です。私たちOT専攻では、学生全員が笑顔で卒業式を迎えられるよう、合格率100％を目指しています。時には厳しく、時にはそっと見守りながら、学生自らが前を向いて進めるよう教員一同で支援していきます。

ご家庭におかれましても、ぜひ、より一層の温かいご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

表1．OT専攻の教育目標（抜粋）

4年	臨床に必要な専門的知識（国家試験レベル）を習得する
3年	専門知識を習得する
2年	専門基礎知識を習得する
1年	能動的な学習習慣を身につける

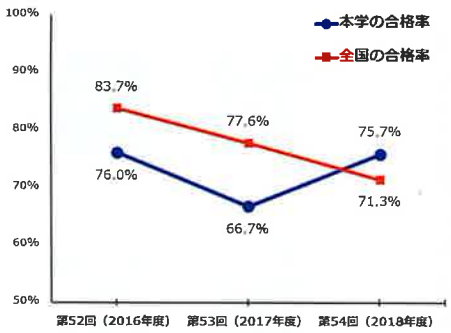

図1．作業療法士国家試験の合格率推移

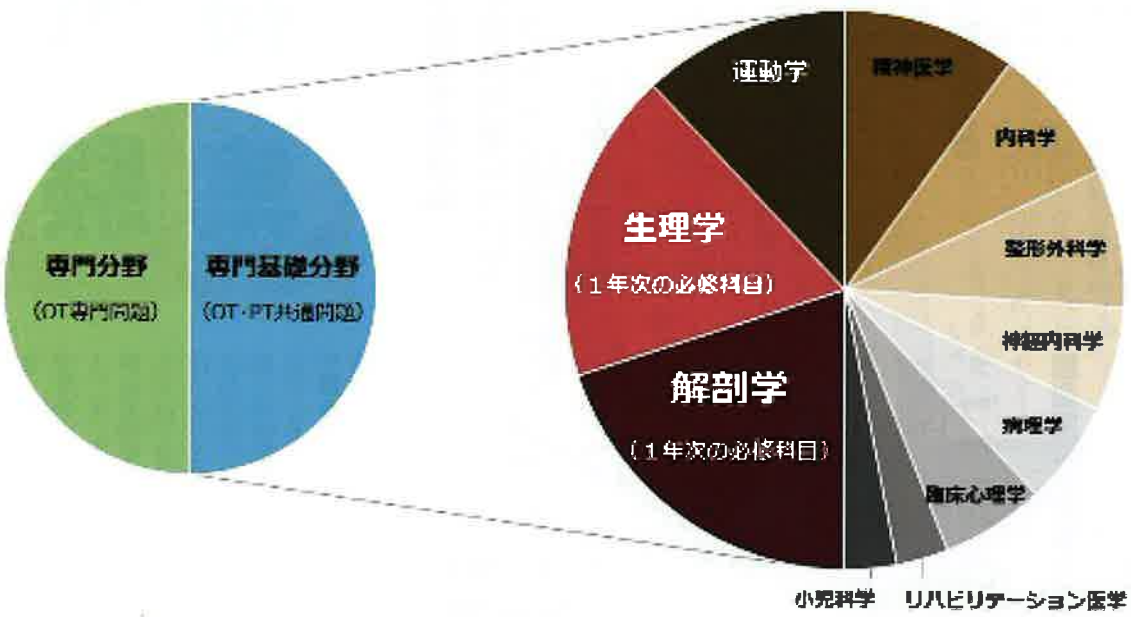

図2．国家試験の出題範囲

看護学科国家試験対策委員会から保護者の方へのお願い

看護学科国家試験
対策委員会委員長
准教授　中井芙美子

【合格率の現状】本学の国家試験合格率は、看護師・保健師ともに全国平均を下回る結果です。合格率に影響していることは、過年度生の合格率が低いこと、1年次からの学習の積み重ねがない、また、学習習慣が身についていないことです。そこで、国家試験合格を目指して実施している対策について学年別に紹介し、大学と保護者様が一丸となって学生を支援していく必要があることについて、ご理解いただければと思います。

【1年次生への対策】1年次は、主に学習支援センターによる学習支援となります。人体の構造と機能、算数一般を含むスタートアップテストを実施し、その結果から個別指導を行っています。人体の構造と機能は、国家試験の勉強の基礎となります。人体の構造と機能がしっかり理解できていないと、その後の知識の積み重ねに支障をきたします。1年次のうちに人体の構造と機能の知識をしっかり身につけておくことが鍵となります。

【2年次生への対策】2年次になると、専門的な知識の学習が増えてくるので日々の学習の復習が重要になります。空きコマを使って、グループワークをし、学習習慣を身につけることができるよう指導します。また、2年次には、人体の構造と機能・薬理学・病態生理・基礎看護学を含む模擬試験を受験します。

【3年次生への対策】3年次は、前期に後期からの実習に向けて事前学習ができますので、事前学習をしっかりすることが国家試験の勉強になります。各領域の実習後は、それぞれの領域で確認テストを行うことになっています。3年次でも1回模擬試験を受験します。

2年次・3年次の模擬試験では、あまり良い点数はとれないかもしれませんが、自分の成績と全国における自分の位置を確認することで、今後の学習の必要性についての自覚につながると考えています。

【4年次生への対策】4年次では、模擬試験、集中講義、グループ学習をしていきます。模擬試験は、6月・8月・10月・11月・12月・1月に実施します。模擬試験は受験した後が重要です。間違ったところ、特に70％正答率の問題を確実にしておくための学習をする必要があります。70％正答率とは、70％の人は正解している問題です。国家試験は、全体の平均点で合格ラインが決まるので、ほとんどの人ができる問題ができないと、不合格になる可能性が高いということになります。

また、模擬試験の結果から成績下位の学生を選出して、個別指導を行っていきます。集中講義は、東京アカデミーの講師によるもので、8月と11月と1月に4日間ずつ行います。集中講義は、講義ですので、受けるだけにならないようにすること

が重要です。講義内容は、必ず復習し自分の知識にしていくよう心がける必要があります。最後に、グループ学習は、学生同士が刺激しあったり、教えあったりして学習習慣や学習効果をあげることが目的です。特に成績が良くない学生は、一人よりグループでの学習のほうが、学習が進む、成績が上がると言われています。

【1年次からの継続的な対策】以上のように、国家試験に向けての学習は、1年次から学習習慣を身につけること、自分が何をできていないのかを知り、それを一つ一つ克服していくことがポイントになります。学習習慣は身についていない学生も多いので、学習計画を一緒に立てていきます。立てた学習計画は、できているか確認しながら支援していきます。

【大学での学習の推奨】学習は、一人では急にできないので、大学に来てすることを勧めています。4年生になると特に講義が少なくなるため大学に来なくなります。実は、これまで国家試験を不合格になった学生のほとんどが、後期の時期にほとんど大学に来ていない学生です。大学に来て学生や教員の声を聞きながら、情報収集しながら学習することはとても大切なことなのです。保護者の皆様からも、ご子弟に大学に行って勉強するようにお声かけをお願いいたします。

【アルバイトは最低限に】学習に向かうことが困難な事例としては、アルバイトの実施があります。家庭の事情でどうしてもアルバイトをしないといけない学生は、最低限度にしていただき、アルバイトは、なるべく辞めて勉強に専念してください。昨今では、アルバイトを辞めて、学習に専念するために、病院奨学金を出す（この病院に就職する必要有り）病院も増えています。選択肢の一つとしてお考え頂くのもよいかと考えます。

【4年次後期でのご支援】以上のように難しい勉強をひたすらやっていくことは、とてもつらく、忍耐強さが必要です。よって、規則正しい生活を送り、気持ちを安定させて学習に向かう必要があります。そこで、ご子弟が規則正しい生活を送ることができるように、気持ちが安定するように、ご協力をお願いしたいと思います。また、後期になると4年生は、本格的に国家試験の勉強をしていきます。ご子弟にスケジュールを確認して頂き、国家試験対策への参加を促してくださいますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

二〇一九年度 看護宣誓式を行いました

看護学科准教授
松原 みゆき

風薫る五月晴れの中、4月20日（土）に、本学宇品キャンパス体育館にて、第10期生たちは心も晴れ晴れと看護宣誓式を迎えました。

ご来賓の実習施設の方々やご父兄の皆様が多数ご臨席くださり、看護師としての第一歩を踏み出す第10期生は、平和都市広島の象徴である「平和の灯火」を「ナイチンゲールの愛の灯火」として一人ひとりいただいたのち、実習グループのメンバーと一緒に実習に臨む心構えと夢を、心をこめて宣誓しました。人々の命を育み、苦しみを和らげ、学生の目指す看護師への成長を願い祈った、心に残る一日となりました。

看護学科 江田島研修

看護学科2年生
鬼塚 雅士

私たち看護学科の1年生と2年生は、コミュニケーション技法という授業の一環として江田島研修を5月29日から31日までの3日間、行ってきました。

この研修では、本学園の沿革、建学の精神、理念などを学ぶとともに、知的活動の動機づけを高め、科学的な思考法と適切な自己表現力を身につけることを目的としており、看護学科では更に、医療従事者を目指す学生として大切なコミュニケーション能力や人への思いやりなどのソーシャルスキルについて学修することを目標に掲げました。また、今回の江田島研修は去年と異なり、学生が主体となり各研修を行うことで、学生一人ひとりが他と協力しながら行動する能力を培うことも目的の一つとしました。

今回、私は最初から江田島研修のリーダーではなかったのですが、1年生の研修に対する前向きな姿勢を見た時に、1年生が「今年の江田島研修以上に来年の研修をいいものにしたい」と思ってくれるような研修にしたいと思い、リーダーをやりたいと後から担当させてもらう形となりました。リーダーを中心に企画・運営を行う訳ではなく、1、2年生の実行委員がそれぞれの研修を主体となって取り組んだ為、学生主体という本研修の目的に沿っており実行委員としてとても達成感のある充実した研修になりました。

今回の研修で私が特に印象に残っているのは、最終日に行われた研修Vの班活動です。この班活動では本学園の掲げる『心技一体』について

1、2年混合の班で意見を出し合い、理解を深めこれからの学生生活に活かしていく、という内容でした。この研修は昨年行われなかった為、2年生も最初は混乱していましたが、すぐに先輩として1年生を引っ張っていき、この江田島研修で初めて関わるとは思えないほど円滑に話し合いを進めていました。また、発表の際には各班様々に心技一体を理解・表現しており、1年生もいい意味で楽しみながら取り組んでいたのがとても好印象でした。

180人近くいる本学の看護学科生を研修の3日間まとめる事は本当に大変で気が滅入ることもありましたが、実行委員の学生や先生方が優しく支えてくれたので最後までリーダーとしてしっかりやり遂げることが出来ました。リーダーを務めたことで上に立つ人間の責任の重大さや支える人の温かさ、チームがひとつになって取り組むことの意味など多くのことを学ぶことが出来ました。

また、今回の研修に後ろ向きだった学生も最終日の帰りの船で「何だかんだいい研修だった」と言ってくれたので私自身の達成感に繋がりました。江田島研修の3日間だからこそ経験できたすべてのことを今後の学生生活に活かしていこうと思います。

来年また江田島研修を行う1年生の実行委員の皆さん、今年よりも充実した研修にできるよう頑張ってください。きっと皆さんならできると思います。

リハビリテーション学科 三瓶研修

理学療法学専攻2年　金本颯大

今回、三瓶研修に実行委員長として参加して様々なことを感じとても成長できたと思う。去年参加した時と比べて大きく成長した点は、常に時間と次の行動を把握し、今、自分が何をすべきなのかを考えていたことだ。学生の代表としていいかげんな言動をとればみんなにそれが伝染してしまう。常に模範であろうと努力を怠らず自分を高めることができたと思っている。このような成長は普通に生活していては得ることができない経験であり実行委員長として三瓶研修に参加できたことに感謝している。時には辛く思うこともあった。責任は重く、言いたくもないことも言わないといけないし、親しい友達とは別に行動をしないといけなかったりもした。それでもこの研修で得た経験は貴重な体験であり今ではやってよかったと胸を張って言える。来年の二年生や、その後に入ってくる新入生たちは興味があるならば是非挑戦してほしいと思う。もしかしたらやっている時は苦しいことが多いかもしれないけれど、終わってみれば様々なことを学べると思うので頑張ってみてほしい。

今回の研修で成長したことや得たことをこれからの生活に生かして行きたい。また、本当の意味での良いPTになるためにも今回のことを役立てていきたいと思う。

作業療法学専攻2年　平野好恵

今回、三瓶研修はコミュニケーションを多く取り、そして、楽しく良い経験の出来た実りのある三瓶研修になったと思います。今年は、皆が役割を持って三瓶研修に参加するといったテーマがありました。そのため、各学科、学年から各4名の企画委員を選出し、さらに実行委員も積極的に参加して三瓶研修を皆で盛り上げることができました。皆さんありがとうございました。2泊3日の三瓶研修では、総長訓話から始まり、バームクーヘン作り、スポーツやレクリエーション、集団活動を行いました。どれもとても印象強かったです。特に、バームクーヘン作りが私は、印象に残っています。作る工程として、竹に生地を付け回しながら焼いていく中で、1年生と2年生が協力して作ることにより楽しくコミュニケーションをとることができました。話す中で、その人の個性や人間性を知ることができて良かったです。普段学校内では関わることの少ない人、初対面の人など多くの人と過ごした三瓶研修は副実行委員として参加した私を成長させてくれました。

将来、私たちは、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士になるので、今回の三瓶研修を通して学んだコミュニケーション技法を生かしていきたいと思います。

二〇一九年度 健康科学部保護者の会総会報告

平成最後の年であり月となった平成31年4月21日（土）13時半から、保護者52名（役員含む）、委任状424名（会員総数809名）をもって、総会を開催しました。看護学科の授業の都合で、今回は初めて西風新都キャンパスが会場となりました。

大学からは古澤敏昭総長先生、加本事務局長、玉理西風新都キャンパス事務長が陪席し、古澤総長と西村徳弘会長の挨拶で始まった総会は、

1.「平成30年度事業報告」
2.「平成30年度決算書」
3.「平成31年度事業計画（案）」
4.「平成31年度予算（案）」
5.「平成31年度役員名簿」

の議案が提出され、全て拍手で承認していただきました。

予算では、施設・設備充実協力金積立」80万円について、保護者の会が積み立てて管理しているのか、学校に寄附して学校が管理しているのかとの質問があり、大学が大きな行事を行うなどの際に使用するためで、看護学科では400万円、リハビリテーション学科では320万円を積み立てて保護者の会が管理していると事務局から説明がありました。パソコンの更新について、これまで10年間、更新はしていなかったのかとの質問が出され、更新はされていなかったと事務局から説明がありました。14時50分に終了した総会は、続いて、学科に別れ、保護者の会役員が企画する「保護者懇談会」を開催。各学年の実習等に係る保護者としての心構え等を共通認識していただくため、看護学科は池本かづみ教授、リハビリテーション学科は平尾文准教授から、各学科の説明と参加保護者との質疑応答が行われました。保護者役員からの情報提供や情報交換の場として役立つ時間を共にしました。

懇談会開催後、新役員が誕生いたしましたので、合わせてご報告いたします。

看護学科1年生保護者
　伊東富美子様
　髙橋美由紀様

リハビリテーション学科
理学療法学専攻1年生保護者
　沖室　友子様
　森岡貴美子様

理学療法学専攻3年生保護者
　松森　晴雄様

作業療法学専攻1年生保護者
　谷川仁奈子様
　藤本　貴子様

今年は、理事・監事・顧問の方々、総数23名で役員会を開催いたします。

これからも、保護者皆様からの応援を、お願い申しあげます。

（事務局）